

令和 1（2019）年さけます来遊状況（第 3 報：10/31 現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
北海道区水産研究所 さけます生産技術部

- 北海道の 10 月末時点での年齢別来遊数を推定すると、1994 年以降では 4 年魚（2015 年級）は 2 番目に少なく、5 年魚（2014 年級）は 3 番目に少ない
- 北海道の日本海側（オホーツク海区及び日本海区）と太平洋側（根室～えりも以西海区）ともに 5 年魚は前年を上回っているものの、4 年魚は前年を下回る
- 北海道のサケの平均重量は 3.32kg で前年を上回り、主要河川に回帰したサケ 4 年魚の平均尾叉長も大型化し、ともに 2017 年に近い水準まで回復

・サケの年齢組成

北海道の河川に回帰したサケの年齢査定の途中経過をもとに、10 月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4 年魚（2015 年級）が全体の 49% と最も多く、次に 5 年魚（2014 年級）が 37% を占め、3 年魚が 12% と続いています。5 年魚の来遊数は前年同期の 204% と前年を大きく上回っていますが、4 年魚は前年同期の 50% と下回っています。

1994 年以降の年齢別来遊数の平均との比較では、4 年魚 40%、5 年魚 38% となっており、4 年魚は 1994 年以降で 2 番目に少なく、5 年魚は 3 番目に少なくなっています。また、3 年魚は前年同期の 146%、1994 年以降の平均の 141% となっています（図 1）。

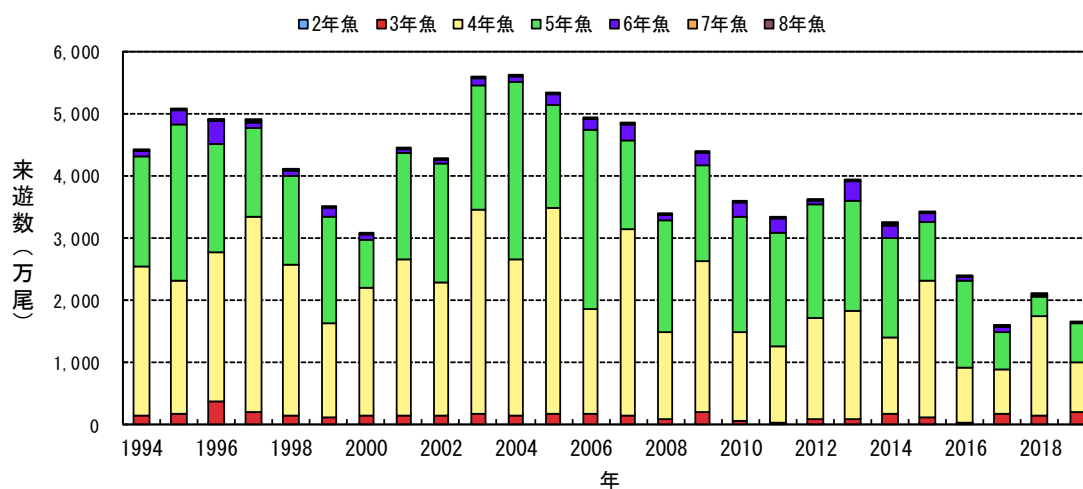


図 1. 10 月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の5年魚である2014年級は5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）で比べた場合、1992年級以降の平均の65%の水準で、少ない方から4番目となっています。また4年魚である2015年級は4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992年級以降の平均の45%の水準で、少ない方から2番目となっています（図2）。

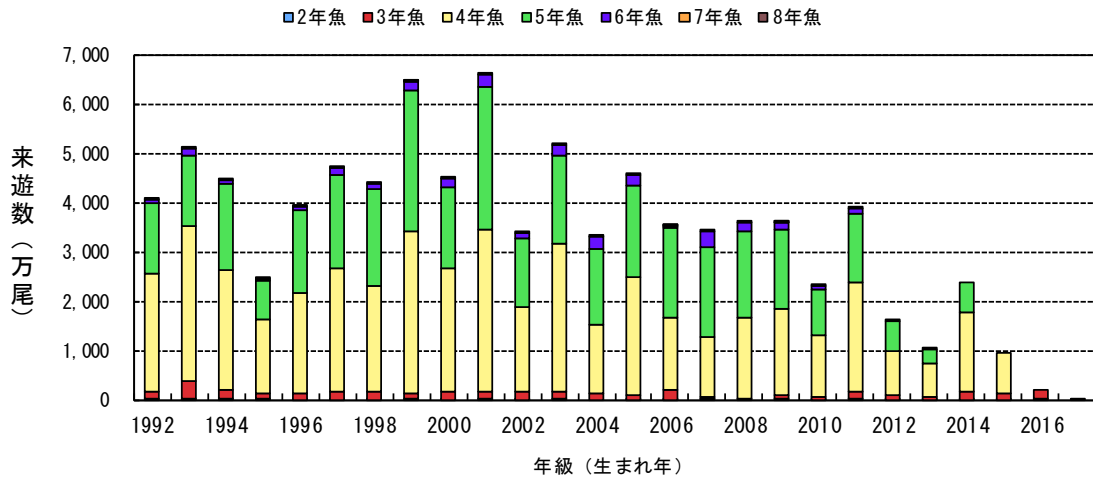


図2. 10月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道）.

地域別にみると、太平洋側（根室～えりも以西海区）では、5年魚の来遊数は前年同期の254%、1994年以降の平均の28%となっています。4年魚は前年同期の47%、1994年以降の平均の29%となっており、4年魚は1994年以降で2番目に少なく、5年魚は3番目に少なくなっています。また、3年魚は前年同期の103%、1994年以降の平均の82%となっています（図3）。

日本海側（オホーツク海区及び日本海区）では、5年魚の来遊数は前年同期の182%、1994年以降の平均の48%となっています。4年魚は前年同期の52%、1994年以降の平均の54%となっており、4年魚は1994年以降で最も少なく、5年魚は3番目に少なくなっています。また、3年魚は前年同期の175%、1994年以降の平均の198%となっています（図4）。

両地域とも5年魚は前年を上回っているものの、4年魚は前年を大きく下回っています。

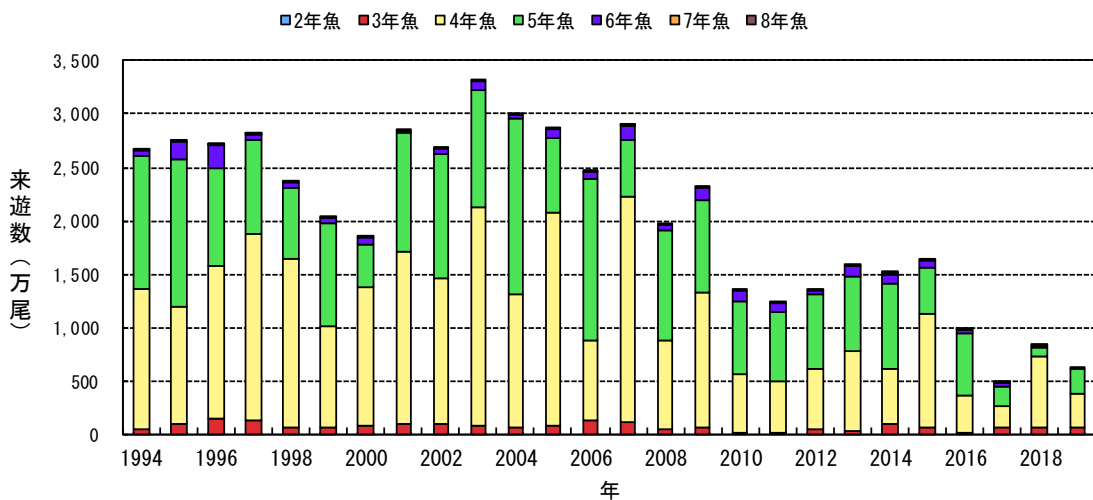


図3. 10月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

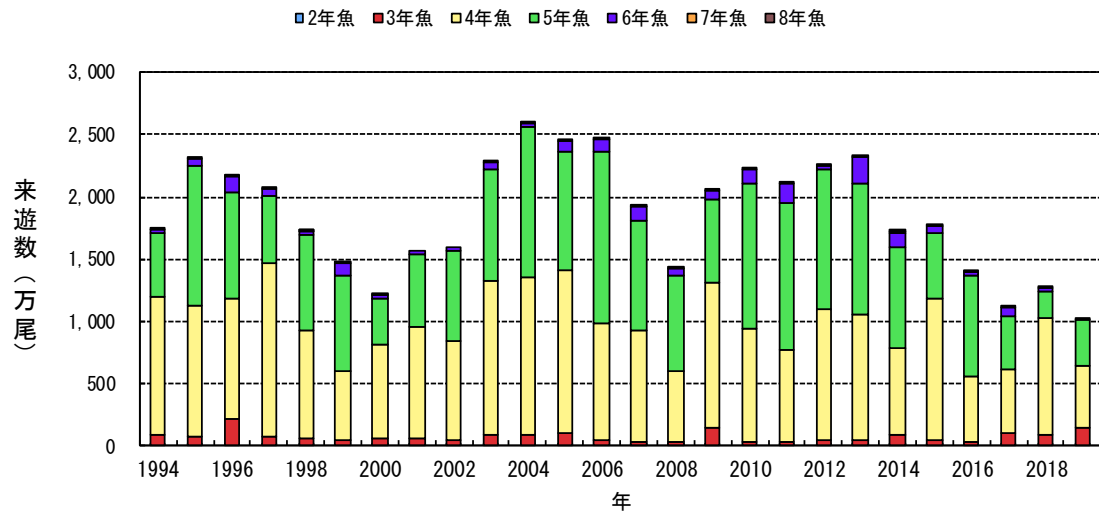


図4. 10月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

・サケの体サイズ

北海道における10月末時点のサケ1尾当たりの平均重量（サケ漁獲数と漁獲重量から算出）は3.32kgであり、1989年以降で最も小さかった前年同期の110%に相当します（図5）。

北海道の主要河川に回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は、前年に比べ3~4cm大きくなっており（図6）、平均重量・尾叉長ともに2017年に近い水準まで回復しました。

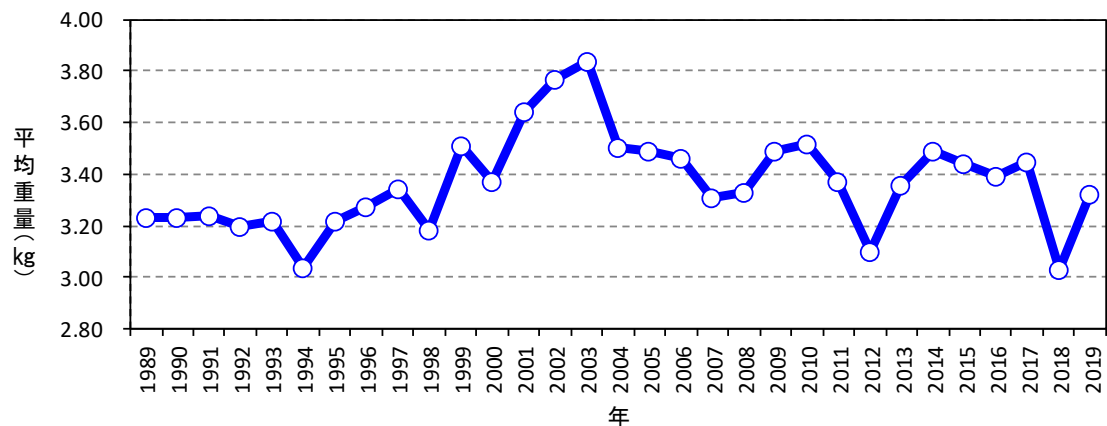


図5. 10月末時点のサケ平均重量（北海道）.

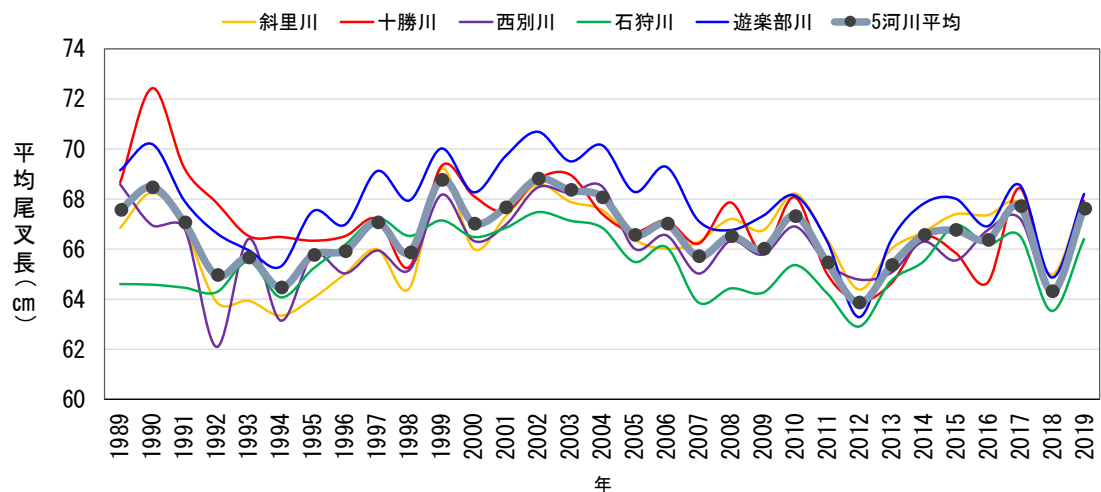


図6. 北海道の主要河川におけるサケ4年魚（雌雄込み）の平均尾叉長.